

NOW IS.

宮城は現在も
現実に
立ち向かう。

Vol.
13
May 2017

ナウイズ
毎月11日発行

in
南三陸

はるな愛

a walk! this town!

この街の“今”を探索

南三陸さんさん商店街

志津川地区の仮設店舗で営業していた商店街が、平成29年3月3日に本設オープン。「南三陸杉」を使用した平屋6棟に、水産物店や飲食店、土産物店から理容室や文具店など、観光客向けから住民向けまで28店舗が軒を連ねています。

南三陸ホテル観洋

東日本大震災時に6カ月に渡り600人の地元住民の避難生活を支え続けました。南三陸町の復興名物「キラキラ丼」は、まちを盛り上げたいと女将が企画。震災の記憶の風化防止や防災減災のため、語り部バスツアーも行っています。

南三陸ハマーレ歌津

歌津地区の仮設店舗「伊里前福幸商店街」が、平成29年4月23日に「南三陸ハマーレ歌津」として本設オープン。飲食、衣料品、電器など8店舗。「南三陸さんさん商店街」とともに町の顔として地域の復興をけん引していきます。

サンオーレそではま

震災前、町内外の子どもたちでにぎわっていた袖浜地区の海水浴場。現在復旧工事を進めており、一部完成した場所を、7月中旬に海水浴場としてオープン予定です。今後は、芝生の広場を整備し、トイレやシャワー棟の設置をしていきます。

町内4カ所「モアイ像」スポット

イースター島から世界で初めて贈呈された本物のモアイ像を始め、全4カ所に6体のモアイスポットがあります。そのうちの1体は白珊瑚と黒曜石で作られた眼が入っており、世界に2体しかない貴重な像です。全制覇を目指しては。

南三陸町

南三陸町志津川地区

NOW IS. Talk Session / in Minamisanriku

「わあーおいしいー!!キラキラしてるー」。南三陸町の旅は、そんな歓声からスタートしました。「南三陸キラキラ丼」っていうんですよ。海と太陽と人の表情がキラキラしてほしいという願いが込められています。案内してくれた南三陸ホテル観洋の女将、阿部憲子さんの言葉に「本当に笑顔になっちゃう」と海の恵みを頬張ります。

はるなさんが町を訪れるのは6回目、震災直後は避難所などを訪問しました。「なにかしたいと思ってとにかく来てみたら、みんな、私の顔を見て、手を握って泣くんです。『愛ちゃん、家族の手、離しちゃう』って。南三陸ホテル観洋は、震災直後から地域住民の避難所になった場所。ロビーには、当時から現在までの写真が展示されています。「当時は辛い気持ちに寄り添える人が来てくれること」が、とても有難かったです」という女将の言葉に、はるなさんはうなずきます。「私も昔そうだったんだけど、辛いとか、いやだなんて気持ちに心のため込んじやうと、あたたかい気持ちが入る余裕がなくなっちゃう。心の傷を癒すことはできなくても、楽しい思い出や豊かな気持ちを作ることが、できるのかもしれないなって思います。」

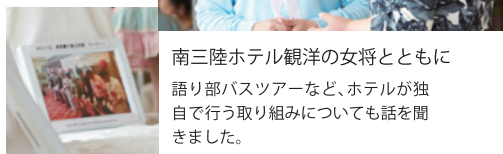


南三陸キラキラ丼
町内の各店で多彩な
丼を味わえます。

南三陸さんさん商店街にて
鮮魚店「ロイヤルフィッシュ」で、生きたタコに大興奮のはるなさん。



旧高野会館
震災当時、屋上に避難
した300人以上の命を
救いました。



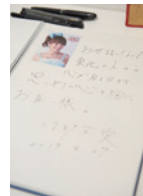
南三陸ホテル観洋の女将とともに
語り部バスツアーなど、ホテルが独
自で行う取り組みについても話を聞
きました。

3日にオープンした「南三陸さんさん商店街」へ。海産物を扱う店をのぞいたり、牡蠣を試食したり。行く先々で店員や町の人があいます。「こいつうふうに、町の人も観光客も集まる場があるのは、すごくいいですね」とはるなさん。「こうやって人と話して感じるぬくもりは、ブログじゃ書きつくせない。私の役割は、被災地の様子を伝えることだと思ってるけど、私が今感じている楽しさやおいしさは、やっぱりここにきて、体験してくれたいらいなと思えます。」

PROFILE

はるな愛

はるな あい



1972年、大阪府出身。タレントや歌手として数多くのテレビ番組に出演するほか、実業家として飲食店なども経営。東日本大震災直後から東北を訪れ、避難所や仮設住宅での慰問や、炊き出し支援などに従事した。

沼田佐和子

自分のことのように、被災地の今を感じる。はるな愛さんと変わり続ける南三陸町へ。

当時自分ができたことは、楽しい思い出を渡すこと

今しか見られない景色と
きらめく海の幸を
感じに来てほしい。



南三陸の海を見ながら、「南三陸キラキラ丼」を

PROFILE

南三陸町役場 保健福祉課
かしわざい さとし
柏木 聡司 さん
平成27年4月から
鹿児島県伊佐市より南三陸町へ派遣

Support Power



ひとりひとりに合った自立再建の支援を。



仮設住宅の退去検査を行う柏木さん



保健福祉課では打ち合わせを重ねる日々

「当初は、住民のみなさんにごう声をかけていか悩みましたが、話していくうちに自分たちの方が大変なのに『遠くから来て大変だね』と声をかけてくれるんですよ。南三陸のみなさんは、とてもあたたかいですね」と話す柏木さんは、平成27年4月に派遣職員として鹿児島県伊佐市から南三陸町にやってきました。仮設住宅の解体や集約に伴う、住民の移転や住宅再建のための支援を行っています。

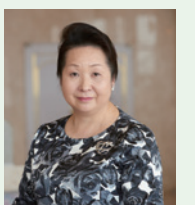
仮設住宅入居者の中には、年齢や心身の状況などの問題により再建を進められずにいる方もいます。伊佐市では生活保護のケースワーカーをしていたので、その経験も活かしながら個別に支援情報をお伝えしています。

平成28年度、南三陸町は災害時相互応援協定を鹿児島県伊佐市と締結。被害が広域に及ぶ災害でも互いに支援ができることももちろん、災害を想定し、被害の最小化につながるまちづくりを行う事前復興の取り組みをしています。「伊佐市に戻った派遣職員が、小学校などで南三陸町の話をし、防災減災につなげる取り組みもしています。今後派遣が終わっても、災害に強いまちづくりに携わっていきたく思っています」。

今月のガイド

南三陸町
南三陸ホテル観洋 女将

阿部 恵子 さん
0226-46-2442



父親が創業したホテルを引き継ぎ、精神的に活動する阿部さん。震災前から南三陸町へ観光客を誘客する必要を感じ、「南三陸キラキラ井」をPRするなど観光資源の掘り起こしを行ってきました。震災後は、変わりゆく町の現状を知ってほしいと「語り部バスツアー」を運行しています。「私はあの日、父か

らちり地農津波のことを聞いていたから、状況に即した現場の判断をし、行動をすることができました。私たちは、今回の震災の教訓を語り継がなければいけない。南三陸で見たことが、未来の防災に役立つららと思っています」。語り部バスツアーは、朝8時45分から1時間程度開催。大人500円で、要予約。

info/area

{エリア情報} 復興や防災にまつわるニュースをお伝えします



三陸沿岸道路が 南三陸海岸ICまで開通

平成28年10月に三滝堂IC～志津川ICが開通し、平成29年3月には志津川IC～南三陸海岸ICが開通しました。仙台市から南三陸町まで三陸沿岸道路がつながり、医療の迅速化や水産業の発展など地域の復興創生が期待されます。平成32年度までに気仙沼港ICまで延伸される計画です。



南三陸復興市

震災後「福を興す市」として南三陸復興市が始まりました。旬の時期の魚介をテーマに毎月最終日曜日に開催。集客数は年間10万人を超え、南三陸町の復興のシンボルイベントとなっています。
●6月25日(日)「志津川湾銀ざけ・ホタテまつり復興市」
●南三陸復興市実行委員会
☎090-7077-2550

記者の視点



筆者プロフィール
河北新報社南三陸支局
古賀 佑美 さん
1984年生まれ、埼玉県出身、
2007年入社、南三陸支局

再生への思いつなぐフラッグ、新商店街に『はまる』。 商店街が町内と町外をつなぐ交流拠点に。

東 日本大震災で被災した南三陸町歌津に新しい商店街「南三陸ハマレ歌津」が4月23日に開業した。仮設商店街で営業を続けてきた6店に飲食店2店が新たに軒を連ねる。

商店街名の「ハマレ」は三陸地方の方言で「仲間になる」を意味する「はまる」にちなんだ。日頃利用する地元住民はもちろん、観光客やボランティアを加えて大きな輪をつくる。

平成23年12月に営業を始めた仮設の「伊里前福幸商店街」には5年4カ月間にわたって築き上げた仲間がいる。プロスポーツのサポーターがその一例だ。新しい商店街には30本以上の色とりどりのチーフフラッグが掲げられている。

震災後、サッカーJリーグガルタ仙台的南三陸町出身のサポーター

がフラッグの提供を全国に呼び掛けたのがきっかけで300枚以上が集まった。選手のサイン入りやJリーグの公式フラッグも含まれる。大漁旗に見立てて飾られ、歌津のシンボルになった。

サポーターは、商店街のイベントを手伝ったりして商店主や地元住民との触れ合いを続けてきた。その一人の仙台市泉区の会社員浦沢真人さん(43)は新商店街の開業日に訪れ、「自分のことのようにうれし。歌津がどうなっていくのか見届けたい」と語った。

地元のためだった商店街が震災を経て、町内と町外をつなぐ交流拠点に役割を変えている。商店街組合長の高橋武一さん(67)は「これからもっと輪を広げたい。まだ夢の途中だ」と意気込む。

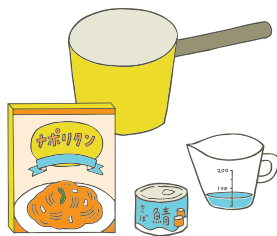
NOW IS.

防災

身近な食で 防災意識を高めよう！

災害時の体力・気力回復に、食事はとても大切です。もしもの時に慌てないために、おいしくて簡単な「サバ・メシ」を日頃から考えてみましょう！工夫次第でいろいろなレシピが生まれますよ。

次回は、災害時に役立つアイデアが詰まった「サバ・メシ」のレシピをご紹介します！



もしもの時に役立つ「サバ・メシ」

「サバ・メシ」とは、サバイバル・メシ、つまり非常食のこと。Date fmでは、缶詰などの備蓄食材や身近な食材を活用して災害時に役立つレシピを考えようと、「45分以内にカセットコンロ1台でつくれるもの」を条件に、「サバ・メシ*コンテスト」を開催してきました。



缶詰のカンパンと少量の水で作るサバ・メシ「カンパンスイーツ」

「サバ・メシ」のヒント

1 水なしや少しの水で調理しよう！

災害時の水は貴重です。なるべく使わずに調理する工夫をしましょう。

2 保存のきく食材を活用しよう！

缶詰やレトルトなど、長期保存ができる食材は「サバ・メシ」向きです。

3 一つの鍋で作ってみよう！

洗い物を少なくするためにも、使う鍋は一つにすることが基本です。

【取材協力】
エフエム仙台防災・減災プロデューサー

板橋 恵子 さん

ラジオパーソナリティ。
エフエム仙台の防災啓発番組「SUNDAY MORNING WAVE」等に出演中。



【お知らせ】

「サバ・メシ防災ハンドブック2017」を無料配布中。「アクティブ」をキーワードに、積極的・能動的な防災の情報を掲載しています。詳しくはDate fmのホームページまで。

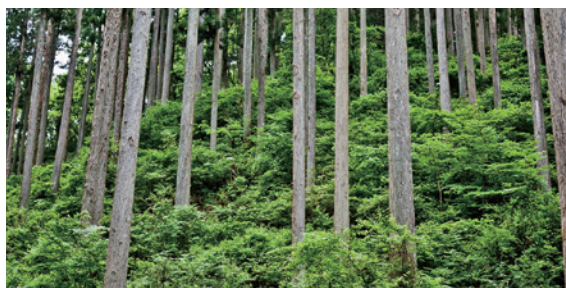


森・里・海の 循環のなかで 自分の役割を果たす。

森に携わる者として
南三陸と共に生きる

海のすぐそばにあった本社の建物にいた丸平木材株式会社の小野寺邦夫さんは、津波に追われて裏山に駆け上ります。そこで見たのは、一面の海になったまちでした。「圧倒的な自然の力に呆然としました。あんなに重い機械があった本社工場ですら、土台も残さず流されてしまったんです。何もかも流された灰色のまち。けれども、振り返って山を見ると、そこには生き生きと茂る木々がありました。「人間の営みは儚い。当たり前だと思っていた日常は、実は貴重だった。だからこそ、自分は自分の立ち位置で、山を動かしていかないといけない。その想いだけで、立ち上がったような気がします」。明治時代から続く丸平木材の経営理念のひとつに「私達は地木の力を輝かせ、『くらしを包むやすらぎと感動』を提供します」という言葉があります。小野寺さんは、今こそその理念に立ち返り、何もなくなった地域と共に歩もうと決意しました。

本社と工場を木材置き場だった山側に再建。特



(右)震災前に丸平木材の本社があった場所
(左)美しく整えられた南三陸杉の森

産の「南三陸杉」に本来の力を引き出すための投資をすると決め、文字通りゼロから設備をそろえました。

復興を進めるために 森ができること

「杉は、水が大好き。でも、南三陸は年間降水量がとても少ない。なのになぜ良質な杉が育つのかという、それは海のおかげなんです。ミネラルをたっぷり含んだ潮風や、春から夏にかけて発生する霧が、杉に十分な水分を与える。成長した杉が山を守り、山は栄養豊富な地下水をため込む。その地下水が海の底から湧き出す。全部循環しているんです」。

南三陸町は総合計画に掲げるビジョンに『森・里・海・ひとのちめぐるまち 南三陸』を掲げています。自然を活かしたまちづくりを行うため、森林保護の国際認証であるFSC®森林認証※も取得

しました。「復興が進むなかで、森がどんな役割を担えばいいか、いつも考え続けています」と小野寺さん。

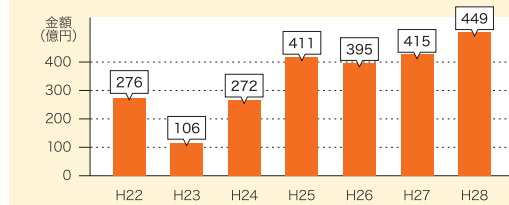
震災後、全国各地から人が集まり、化学反応が起きているように感じると話します。「震災後、会社として再始動してから丸5年です。“当事者”として関わってくれる町外の人に多く出会い、南三陸杉に新たな価値を見出すことができました。震災を経験し、何も無いところから再スタートしたからこそ、希望がたくさんある。南三陸杉を用いた取り組みを着実に進めながら、常に革新を試みていきたいと思っています」。

「南三陸さんさん商店街」の建物に使われるなど、全国から熱い視線を集めている「南三陸杉」。震災をともに乗り越えた杉とともに、小野寺さんは歩み続けます。

※FSC(R)森林認証とは：森林の環境保全に配慮し、地域社会の利益にかなない、経済的にも継続可能な形で生産された木材に与えられる国際認証。

県内の進捗状況：木材加工工場※の製品出荷額

※震災で生産停止となった県内主要16工場(平成25年度に復旧完了)



PROFILE

丸平木材株式会社 代表取締役

小野寺 邦夫 さん

2009年に同社五代目社長に就任し、南三陸杉の活用とブランド化のキーマンとして活躍。「山さ、ございん」プロジェクト実行委員や、南三陸杉デザイン塾初代塾長も兼任する。

NOW IS. 13

発行：平成29年5月11日 宮城県震災復興本部(事務局：震災復興推進課)
〒980-8570 宮城県仙台市青葉区本町3丁目8番1号
Tel:022-211-2443 Fax:022-211-2493

「復興情報発信プロジェクト NOW IS」は、宮城の復興の「いま」を伝えるプロジェクトです。

宮城県 Miyagi Prefectural Government

INFORMATION from MIYAGI

〔宮城県からのお知らせ〕

02 岩沼海浜緑地が 全面開園しました！

東日本大震災の影響で閉園していた岩沼海浜緑地(北ブロック)が平成29年3月26日(日)から再開園しました。これにより、テニスコートや野球場など有料施設がある北ブロックと、バーベキュー広場や大型コンビネーション遊具がある南ブロックの全面が使用可能となりました。



問い合わせ先については、有料施設の予約については北ブロック、バーベキュー利用については南ブロックへお問い合わせください。皆さまのご利用をお待ちしております。

◎岩沼海浜緑地管理事務所
☎0223-29-2777(北ブロック) ☎0223-23-5343(南ブロック)
<http://www.tohoku-daiken.com/contents/business/manager/facility/iwanuma/index.html>

01 一途な想いが、宮城の明日を切り拓く。 宮城県職員、募集。

県の職員採用試験(行政職・技術職・警察官など)の受付を5月12日(金)から順次開始します。現在、宮城県では、「創造的な復興」を目指して、先進的な地域づくりに取り組んでいます。県民一人ひとりに一日も早く復興を実感してもらうため、私たちは宮城の復興を一途に願うあなたの力を必要としています。詳しくは県人事委員会事務局及び県警察本部のホームページをご覧ください。



◎県人事委員会事務局 ☎022-211-3761
◎県警察本部警務部警務課 ☎0120-204-606
<http://www.pref.miyagi.jp/site/saiyou/> <http://www.police.pref.miyagi.jp/hp/keimu/police/>

MEDIA INFORMATION

みやぎ復興情報ポータルサイトは
こちらから！
<http://www.fukkomiya.jp>

宮城の復興情報を発信する、「みやぎ復興情報ポータルサイト」を公開しています。復興に関するお知らせや復興の進捗状況、NOW IS.取材チームによるブログで情報を発信します。

最新情報を
ブログで！

今月のブログピックアップ



いわたかれん
復興フォト
岩田 華怜



これまでの被災地訪問は80回を超える岩田華怜さん。「写真」に想いを込めて、これから月1回被災地の状況を発信します。今回訪れたのはいちごの産地、亶理町。「いちご団地」などを巡りました。

宮城発！
元気と食の
最新情報

一般社団法人
IkiZen

震災復興に軸足を置き、被災地の企業の販路開拓や商品開発、広報活動支援などを行っています。



このブログでは、さまざまな取り組みを行う被災地企業の「食」に注目し発信します。新しくオープンした「南三陸ハンマーレ」と南三陸の海の幸であるタコやホヤを使った及善蒲鉾店の新商品「炙り笹」をご紹介します。

詳しくは、「みやぎ復興情報ポータルサイト」内の「NOW IS.復興レポート」をご覧ください。

いまを発信！復興みやぎ



SNS「いまを発信！復興みやぎ」では、取材チームが見た被災地のいまを発信しています。皆さまからの投稿もお待ちしております。ハッシュタグ「#fukkomiya」をつけて、撮影した画像をお寄せください。



南三陸てん店(てん)まっぷ

商店街以外にも、新しいお店が建っている南三陸町。お店は主要道路から少し入っているなど点在しています。観光客だけではなく、住民の人たちにも利用してもらいたいと「南三陸てん店まっぷ」が平成25年から毎年発行されています。志津川地区や歌津地区などの施設が細かく記載されているので、ぜひこのマップを片手に「点々」と点在する町内の商店や観光施設を「転々」と巡ってみてください。



宮城県の東日本大震災死者数(関連死含む) 10,558人 | 行方不明者数 1,233人 | 平成29年3月31日現在宮城県危機対策課調べ

Vol.
13
May 2017

ナウイズ
毎月11日発行

宮城は^{いま}現在も
^{いま}現実に
立ち向かう。

NOW IS.



それでも 山は元気だった

ほんのり淡い赤み。まっすぐで素直な木目。海の風と霧に育てられた「南三陸杉」。埋もれかけていた山の資源をブランド化する計画がスタートしたのは、平成20年のこと。南三陸町で木材業を営む丸平木材では、これまでの経営から大きく舵をきり、生産する木材のほとんどを南三陸杉に限定。「南三陸町山の会」を中心に町全体で「南三陸杉」の付加価値を高

めるため動き出しました。その取り組みは全国でも評価され、平成23年3月1日の全国林業経営者コンクールで農林水産大臣賞を受賞します。「南三陸にこんなに良い杉があったなんて、とインパクトを与えた受賞でした。うれしかったですよ。いよいよこれからと、みんなで決意を新たにしました」。町を津波が襲ったのは、その10日後のことでした。

小野寺 邦夫

丸平木材株式会社